

播磨圏域連携中枢都市圏

協定締結日：平成27年4月5日

協定締結日：平成27年12月21日（赤穂市追加）

圏域市町	圏域人口（H27国調）
姫路市（連携中枢都市）、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町 [8市8町]	1,307,003人
	圏域面積
	2,800.03km ²

圏域全体の経済成長のけん引

企業誘致の推進

圏域への企業誘致を促進し、圏域の産業振興、雇用確保を図るため、企業の圏域内への投資意向に関するアンケート調査及び広域企業誘致パンフレットの作成等を行う。



【臨海部に集積する企業群】

播磨地域ブランド「醸す 造る 播磨」の確立

播磨の風土を活かして、付加価値化できる戦略品目の種を播き、地域ブランド資産として磨き上げ、「醸造といえば播磨」を目指す「醸す 造る 播磨」プロジェクトに取り組んでいる。

若い世代に向けた共感醸成事業（醸造アカデミー等）や地域醸造を支える地元ファンを育てる地元員事業（醸造フードイベント、食育ワークショップ等）などを実施。



広域観光の推進

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えたインバウンド観光の推進のため、圏域の観光動向の把握や、体験型観光資源のプロモーションによる観光PRを実施。

食の多様性への対応

ハラール、ベジタリアン、コーシャなど、世界には様々な食文化や食習慣が存在する。今後増加が見込まれる外国人観光客や在住外国人に対応するため、近隣市町と協力し、播磨地域全体で食の多様性への対応を推進。

高次の都市機能の集積・強化

J R 姫路駅前の整備とネットワークづくり

播磨圏域の中心にふさわしい都心づくりに向け、J R 姫路駅周辺において、魅力ある商業施設や付加価値の高いサービス産業、文化振興やコンベンション等を通じた交流活動の拠点機能を備えた施設を整備する。



左【姫路市文化コンベンションセンターイメージ】
右【姫路駅前整備イメージ】

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

若年者等の就業支援

圏域への若年求職者等の就労につなげるため、奨学金返還支援制度を創設するとともに、企業向けにインターンシップ制度導入を啓発し、インターンシップマッチング等を行う。

また、保護者向けセミナーの開催や合同就職説明会の共同開催、ハローワークと連携した姫路しごと支援センターの運営、若者サポートステーション事業の活用を実施する。

さらに、出産等で離職した女性や就労経験のない女性向けにセミナーや研修等を行い、多様な働き方実現の支援を行う。

公共施設マネジメントの推進

圏域内の公共施設の総合的かつ計画的な管理の推進と保有量の最適化、財政負担の軽減・平準化を図るため、圏域内の公共施設の情報共有を図る。また、新たな官民連携の手法を学ぶ「PPP/PFI」に関する研究会等を実施。